

## 四、人類救援と生命の光 善悪果論

善悪果とは何か？

アダムとエバは善悪果を食べて死ぬことになった。生霊であった彼らが善悪果を食べて死ぬことになったが、これは生命の果物でなく、死亡の果物であることに間違いない。とすれば、善悪果とは如何なる果物であろうか？

善悪果という言葉自体が靈的な言葉であり、従って、善悪果は果物ではなく、心である。聖書には心に抱いていることを“食べる”或いは“飲む”と表現している。韓国語でも“悪の心を食べず、善の心を食べよ”という言葉がある如く、善悪を知る樹の実を食べたということは、悪心を食べたということで、悪霊を受けたということである。アダムとエバが善悪果の神を受けてから死ぬようになったのだから、その善悪を知る樹の実の神は死の神である。

天声神語

悪魔の虜となった太初(初)の聖なる神は、人間の心の中を転々としながら、六千年間を隠れて働いたのである。聖神の切ない事情と辛い忍苦の過程こそはいちいち言葉で全てを表現することはできないものである。

もし、聖なる神が善悪を知る木の実を食べず、アダムとエバだけが善悪果を食べたとしたら、神は今日のような罪惡世界を、ただ傍観せずにはおかなかったであろう。

アダムとエバは既に罪を犯したのだから死ぬだろうし、また、更に土を練って息を吹き込めば、神のをした義人たちを幾らでも誕生させ得たはずなのに、アダムとエバだけを造らず、続けて土を練り義人たちを造ったはずなのである。そのようにしたなら、その当時、既にこの地上には義人たちが満たされていたはずだから、そのと

き地上天国エデンの園が回復されていたことになる。

聖なる神の意中の意がエデンの園の回復であり、地上天国を建設することであるが、神の義人を造る能力があるとすれば、既に地上天国を建設して余りあったはずである。

だが、神は悪魔の捕虜になって獄に閉じ込められた身の状態であったのだから、この世が日が経つに従い悪魔の世になってゆくことを知りながらも、切ない涙を流すのみで、足手無策、ひたすら勝利者の出現だけを、いまか明日かと指折り待ち望んでいたのである。聖書には、ノアの時全ての人間が洪水で滅亡するさまをご覧になり、神が人間を造ったことを嘆息された、と記録してある。

この世の人間たちが余りにも罪を犯すので、神が洪水をもって滅亡させたなどと言っているが、これは、聖なる神の品性を知らない無知な者が聖書を記録したためである。

聖書を書いた人間自身が悪魔霊にぞくしていたため、どれが神の品性なのか、また、どのようなものが悪魔霊の品性なのかを、見分けられずに聖書を記録したのであった。

神は人間が死んでゆくのを見て、涙を流しながら嘆息される神であるのに、聖なる神が洪水を起こし無残にも人間たちを殺したと書いてあるのは前後のつじつまが合わない話になる。

ノアの洪水は神が起こしたのではなく、悪魔が起こしたものであることは明らかである。

アダムとエバの後孫(孫)が日が経つにつれ繁栄し、その中から勝利者が出現すれば、再び悪魔が滅亡し、神の国が建てられることになるから、悪魔は全ての人間を水攻めで掃討し、この世を

完全に悪魔の世にしようたくらんのだのである。

この人(勝利者)は江華島の摩尼山に修学旅行に行ったとき、その頂上の岩に見殻が付着しているのを見た事がある。これは、その山頂まで海水が満ちていた証拠であり、数千年前に、この世が完全に水に覆われていたことを証明する貴重な資料である。

神の分別

聖なる神の立場で聖書を見れば、どのような言葉が神が話したことで、どのような言葉が悪魔が話したことかということと分別することができる。

創世記を記録した人は、かような分別をする見識がなかったので、悪魔が与えた考えも神の言葉としたし、神が与えた考えも神の言葉だと記録したのである。

聖なる神はどのような神で、悪魔はどのような神なのかを、人類歴史上に神分別のできる人がいなかったので、悪魔に勝つことができなかったのである。

善悪果は悪魔が造ったのだ。だが、創世記にはまるで善悪果の木を聖なる神が造った如く書かれている。

“また主なる神は、見て美しく、食べるによいすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とはえさせられた”(創世記2：9)しかし、神が善悪果をはえさせたとすれば、これは理に合わぬ説である。これは、聖書の記者が神の言葉と悪魔の言葉を分別する神分別が不足していたからである。

善悪果のように人生を死に追い込む、恐ろしい死亡の実を神が造ったとなれば、これは聖書の脈絡に合わないのだ。“その実を見て、その木がわかる”とした聖書の言葉に照らし見る時、悪魔のものを創造した神は善の神ではな

# 新しい時代 新文化運動と哲学

く、悪の神としなければならない。だが、神は善であられ、人間を愛する神(マカの福音書10：18)と言われ、神は生命の神だ、と言われ、善悪果の如き死の原因になる実を造られるはずがないのである。

また、神は全知全能の神であるから、もし、神が善悪果を造ったのなら、善悪果を造るとき既に、アダムとエバがそれを取って食べるであろうことを見通していたはずだし、また、それを見通しながらも故意に善悪果を造られたとなれば、これは、神がエデンの園を破壊せんとする、よくない計画をもっていたことになる。だから、善悪を神が造ったという記録は間違っているのである。

従って、善悪果は悪魔が造った悪魔の心である。善悪果は果物でない心であり、善なる心でない悪なる心である。それは、まさに太祖から神の敵でありながら、神を倒そうと色々と練られた計略である。

聖書には蛇がエバに善悪果を食べるように誘惑したと記録してあるが、ここでの蛇は悪魔の象徴であり、善悪果は悪魔の霊を象徴したのもである。

天声神語

人間を殺すのは悪魔が殺すのであって、神が殺すのではない。神分別のできない者たちが、人が死んだら神が連れて行ったなどと言っているが、これは、神を大いに冒瀆するものであり、神の顔を汚すことである。

神は善なる神であられ、人間を愛する神であられるので、すべての人間たちを救い永生を与えんとすることが神の心である。

このような神の性品を知らない者たちが勝手に聖書を記録し、勝手に神の言葉を解釈して、とんでもない論理

を掲げているのである。これら全ては皆、悪魔の煙幕によって真実を見られず、悪魔の下僕となっていたので、そのように非聖書的な思考が幅をきかせているのである。旧約聖書のイザヤ書には“あなたがたは主の書をつまびらかにたずねて、これを読み。これらのものは一つも欠けることなく、また一つも連れ合いを欠くものはない”(イザヤ34：16)という言葉がある。

もし、聖書全体が組み揃い、理に合って欠点のない文であるなら、強いて組み揃えて見るとすすめる必要はないのだ。聖書の中には悪魔の言葉と、神の言葉が共存しているから、エホバの言葉を詳しく読んで組み揃えて見よ、と言ったのである。

従って、愛の神が、アダムとエバが食べてはならぬ善悪果を一回食べたからといって、彼らをエデンの園から追放し死ぬようにしたとすれば、これこそ組み合わせない話である。罪を犯せば、その罪を許し、洗ってあげ、罪を犯せない秘訣を教えて、これからは罪を犯さないようすることこそが、まさに聖なる神の性品である。

このように聖書は、組み合わせなければ、真偽はわからないし、よく読めば読むほど神の性品と、悪魔の性品が分けられるし、神の意と悪魔の計略が具体的に浮き上がるようになっているのである。－1987、6、20、勝利者の講和の中より－

罪人=罪の人

善悪果を食べ原罪を犯したアダムとエバは罪人になった。罪人ということは罪の人、即ち罪の中で生きてるので罪を犯すしかない人を指して、罪人だと言ったのである。ところが、罪は外から入ってくるものではなく、人間の内にある慾心の所産である、と聖

書は記録してある。

“慾がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す”(ヤコブの手紙1：15)だから罪の根本は慾心であり、慾心は靈魂に逆らい争っているのである。

“あなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい”(ペテロの第一の手紙2：11)

聖書は人間の心から罪悪が生ずるという事実を、次のように記録している。“心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。”(エレミア書17：9)

“これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである。”(マカの福音書7：23)

よく罪を説明するとき、原罪(根元の罪)と遺伝罪(遺伝により出る罪)と、自犯罪(自ら犯した罪)とに分ける。だが、原罪と遺伝罪と自犯罪が出てくる穴は“我”の意識である。原罪と遺伝罪と自犯罪を誰が犯したかといえは、ひっくりめて“我”という意識が罪を犯したからである。そこで、罪が別にあるって、“我”という意識がまた別にあるのではなく、“我”と意識が即ち罪であり、罪がまさに“我”という意識である。だから、聖書は“我を常に捨てよ”“我を愛することが萬惡の惡”だと言っているのである。

今現在の“我”という存在は完全な神の存在ではなく、悪魔の霊である自我意識に占領されている存在である。だから、この世の人類がみな神ではあるが、“我”という悪魔の靈獄に閉じ込められている神であるのだ。

そこで、聖書は閉じこめられている聖なる神を救出するため“我を捨て”“聖なる神の靈に生まれ歸れ”と言っているし、自分の心のままに行わず“主なる神の内で行なえ”と言っているのである。\*次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

# 우리나라는 불사영생하는 전무후무한 진리의 중심국이 되리라



未運論(말운론)

蒼生何事轉凄然 창생하사전저연 初樂大道天降時 초락대도천강시 前無後之中和和 전무후지중원화 淸陽宮殿大和門 청양궁전대하문 日無光珠玉粧 일무광주옥장 鷄籠石白盤理 계룡석백반리 扶桑金鳥樞花國 부상금조근화국 白髮君王石白理 백발군왕석백리 非道覺而無知死 비도각이무지사 道之人解寃世 도지인해원세

창생들은 무슨 일로 처연한 곳으로 도는가? 천지개벽 이후 처음으로 즐거운 무극대도가 하늘에서 내려올 때 우리나라는 유사(有史) 이래 전무후무한 세계의 화평한 중심국가(중원국)가 되리라. 하나님이 계신 맑고 밝은 궁전과 대화문(大和門)은 해와 달이 없어도 구슬과 보옥으로 단장된 듯 아름다운 빛이 나느니라.

대화문은 세상의 문이 아니라 화(和)한 마음, 갈등과 대립, 시기, 질투 등의 인간이 가지는 오욕칠정을 떠난 마음이다. 천하만사를 화(和)한 마음으로 응하니 신선의 경지를 말함이다. 강중산 선생이 저술했다(증산선생의 유적이 아니라는 주장도 있음)는 중화경(中和經)의 화(和)를 말한다. 중(中)은 도의 체(體), 화(和)는 도의 용(用)이다. 화는 조화(調和)이다. 조(調)는 고를 조

자이고로 뒤어나오거나 들어가거나도 아니요 고도의 절제를 의미하고 나라는 것이 없는 경지이다. 도를 닦는 자가 실성할에서 말과 행동을 통해 화(和)를 구현해내지 못한다면 헛일이다. 영무새처럼 들은 것 읽은 것을 읊어봐야 영생구원과는 아무런 상관이 없는 것이다. 영무새가 아니라 말없이 천공을 유유히 날아 흔적도 알수없는 천년학이 되어야 할 것이다.

낙반사유의 십자 이치로 나와서 소사에서 천지공사를 하는 정도령은 부상(扶桑=신비한 나무)이요 금구조(金鳩鳥=금비둘기)이다. 금운을 따라 무궁화 조선에 온 백발군왕이다. 오영으로 볼 때 부상은 나무로서 목이요 금구는 금에 해당되니까 금목합일의 정도령 계룡의 뜻이 내포되어 있다.

도를 깨닫지 못하고 무지하면 죽으리라. 도를 깨닫는 사람들이 해원하는 세상이 오느니라.

甘露如雨海印說 감로여우해인설 天印地印人印 천인지인인인 三豊海印 삼풍해인 雨下三發化字發 우하삼발화자발 火印地印露印化印舍一理 화인지인로인화인합일리 非雲眞雨不老草 비운진우불로초 有雲眞露不死藥 유운진로불사약 八人登天火字印 팔인등천화자인 甘露如雨雙弓印 감로여우쌍궁인 雙弓何事十勝出 쌍궁하사십승출 乙乙何亦無文通 을을허역무문통 先後兩白眞人出 선후양백진인출 三豊吸者不老死 삼풍흡자불로사

비와 같이 내리는 감로해인을 설명하자면 천인 지인 인인의 삼풍해인이 있는데 비처럼 내려서 세 번 피어나고 또 변화해서 피어나니 화인(火印) 지인(地印) 로인(露印)이며 화인(化印)은 삼인(三印)을 합하여 하나로 됨이로다. 구름 읽는 하늘에

서 내리는 진자 단비가 불로초요 구름 형상을 한 진자 감로가 불사약이다. 불이 하늘로 오르는 형상을 한 것이 화인이다. 감로가 비와 같이 내리는 것이 쌍궁(궁궁=심승)의 해인이다.

쌍궁에서 어떻게 심승이 나오는가? 궁궁이 마주보면(兩弓對面)에서 심승이 나온다. 또 을을에서 어떻게 무문통이 나오는가? 선천하도와 후천낙서의 양백에서 진인이 나와서 삼풍 해인을 내려주는 데 삼풍 해인을 마시는 지는 늙지 않고 죽지 않느니라.

石井何意延飲水 석정하의연음수 鷄籠何意變天地 계룡하의변천지 海印何能利山海 해인하능리산해 石白何意日中君 석백하의일중군 生旺勝地弓白豊 생왕승지궁백풍 十五眞主擘現出 십오진주택현출 末世聖君容天欸 말세성군용천백 鷄有四角邦無手 계유사각방무수 玄武靑龍朱雀時 현무청룡주작사이 開東日出火龍赤蛇 개동일출화용적사 白馬乘呼喚兮 백마승호환헤

석정은 무슨 뜻인가? 마시고 마시면 사람의 생명을 연장시켜주는 생명수이니라. 계룡은 무슨 뜻인가? 썩고 죽는 세상(천지)을 썩지 않고 죽지 않는 새 하늘 새 땅

목인(木人)즉 감람나무 정도령이다. 계유사각방무수鷄有四角邦無手는 鄭(정)자의 파자.

현무, 청룡, 주작 즉 북해도에서 동해도로 동해도에서 남해도로 마침내 자하도에 거하시게 되면 동방의 나라 한국의 산천이 밝아 오리라.

그런 연후에 진사성인 정도령이 백마를 타고 오시니 모든 백성들이 크게 부르짖으리라. 백(白)은 금운, 마(馬)는 천마이니 하늘의 하나님을 의미한다. 정도령이 목운 5도72궁에서 중간에 여인 한 분 그리고 금운 6도81궁으로 오는 과정을 요약한 것이다.\*

박명하 /고서연구가

myunghpark23@naver.com 010-3912-5953

## 당신을 영생의 세계로 안내하는 신문

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

**승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다**  
**전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다**

### 승리신문

1990.3.3 등록번호 다 - 0029

발행인 겸 편집인 김중만

본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람됨이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음의 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.

경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37 우 14679 홈페이지 [www.victor.or.kr](http://www.victor.or.kr)



광고 및 구독신청 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202

본지는 신문윤리강령 및 실천요강을 준수합니다.